

# 新婦人しんぶん

## 新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放を勝ちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

## 今週の紙面

- 2面 ジェンダー表現の今/声明/女性ニュース ■3面 読者のページ/まんが/詩・俳句
- 4面 新婦人60年あの時/防災/テレビ評 ■5面 憲法講座/ホッ トライン
- 6面 折り紙/もう1品/母の歴史 ■7面 新婦人のページ/談話/足のトラブル



新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

# 自分たちが変わる みんなで変える



日本新聞労働組合連合(新聞労連) 中央執行委員長

## 吉永磨美さんに聞く



よしながまみ 1998年毎日新聞入社。東京本社社会部、生活報道部などを経てくらし医療部記者。連載「ガラスの天井」はじめ、教育、ジェンダー、福祉などをテーマに取材・執筆。2020年9月より現職で専従(2022年7月退任予定)

政治家、企業家の女性蔑視発言が後をたたく、またSNSなどで誰もが発信者になる時代、「失敗しないためのジェンダー表現ガイドブック」(小学館 初版2022年3月)が話題です。作成したのは、新聞やテレビなどのメディアで働く記者たちです。新聞労連委員長の吉永磨美さんに、出版に込めた思いなどを聞きました。

## 「失敗しないためのジェンダー表現ガイドブック」に込めた思い……

### 「失敗しないためのジェンダー表現ガイドブック」が示す気をつけたい表現の例

- ・女性ならではの繊細さ
- ・内助の功
- ・ゲイは男の気持ちも女の気持ちもわかる
- ・女性でも安心、新車特集
- ・本日入籍しました
- ・父兄の皆さま
- ・女房役をつとめる副社長

現場からの声や悩みを出し合って  
—そもそも本をつくらうと思われたのは?  
吉永 新聞労連は、2019年に、「中央執行委員会(意思決定の場合)の3割は女性にする」というクオータ制を導入し、4期目を迎えました。新聞業界では、ジェンダー平等の視点から、さまざまな問題があります。現場からは、ジェンダー表現や問題に関するさ

まさな声や悩みが寄せられています。「ウエブニュースの釣り見出しに、性的なものを連想する見出しは止めるよう何度か訴えたけれど無視された」とか、「ジェンダーなんて重要ではない、もう書かなくてよいと上司から言われ精神的に参っている」など、深刻なものもありました。ジェンダーに関する表現については、会社の中で声をあげてもなかなか改善につながらないのなら、業界全体で指針的なものをつくれないうかが、現場でおいしいと思っている実例をもとに作成しようという話です。すみません。

### 北海道から沖縄まで20人の記者が執筆

—北海道から沖縄まで20代50代の現場の記者たち約20人が作成にかかわっているのです。  
吉永 自分たちが自分たちの問題をしっかりと伝える、一人ひとりが主人

り話し合いを重ね、特別中執の中塚久美子さん(朝日労組)が全体のアンカーをとつとめ、作りあげました。みんなが参加し変えていく、ポトムアップ型で出版を実現できたのは、新聞労連として歴史的な一歩になったかなと思っています。



長崎市の幹部から性暴力を受けたとして、女性記者が市を訴えた裁判で、5月30日、原告が勝訴した。「長崎市は謝罪を」と訴える新聞労連はじめ支援者たち

公、書き手になって、みんなで作るということを大事にしました。  
—出版されたたん、話題を呼んでいますね。  
吉永 おかげさまで三刷りまで重ね、今もじわじわ広がっている感じです。新聞、出版関係の職場が校閲用にまとめて購入してくれている他、意外なところ、たとえば男性ばかりの職場や建設関係の組合、医師の団体、経営者の学習会、大学などから講師として呼ばれています。執筆に関わった20人が、全国各地でブックトークや学習会を広げ、どこも盛況です。

### ジェンダー表現で大事な5つの視点

—この様な本が待たれていたのでしょいか。  
吉永 そうですね。モヤモヤしていたものがこのガイドブックである程度整理できると思っています。事例(左上)を見ながら改善案についても学びきっかけになるでしょう。  
第1章では専門家のアドバイスも聞きながらみんなで議論するなか、ジェンダーに関わる表現のリテラシーで大事なことを、5点に集約してあります。1、無意識の偏見と男尊女卑 2、性別役割分業 3、過剰な性別表示 4、性の商品化 5、最近よく聞く「LGBT」です。何かひっかかりがあるとすれば、だいたいこのどれかにあてはまります。  
—「女の人はよくしゃべると言っただけ。本当の話をしたので叱られる」(2022年6月)と、いまだ反省していない森喜朗・元首相の発言はどこに入りませんか?  
吉永 森さんの場合は、1番 無意識の偏見と男尊女卑でしょうか。ただ、森さんの発言は、もっと雄弁にいろんなことを語ってくれていますよね。「女はよく話す」、男はわきまを、女はわきまえない。わきまえた方がいいという価値観なんですね。言葉は、今の社会まで映し出してしまっている。だから、公に発信するときは特に、「大丈夫かな」という気持ちを持つことは大事だと思います。(2面へ)

8月20日号は休刊です

